

## 祖父と寄り添って

第一中学校 二年 吉見紗英

私の祖父は、一年前、認知症と診断された。もともと、脳血管障害から左半身に麻痺があり、不自由な身体ではあったが、四年前に入浴の際に転倒し、骨折をしてしまい、そこから寝たきりの生活が始まってしまった。

寝たきりの生活が続くと、次第に口数も減り、自分から言葉を発する事が減っていった。夜中でも、車椅子に乗ろうとし、ベツトから落ちてしまう。床からベツトに持ち上げるのは、大人三人でも大変なのだという。やがて暴言や暴力をふるうようになった。だからといって日によって態度が違い、口数が多く、にこにこしている時もある。警戒した目で私達を見ることもある。祖父は、自分自身をコントロール出来なくなってきたのだと思った。そこで、改めて認知症とは何か、理解しなければならぬと思った。

「後天的な脳の器質的障害により、いったん正常に発達した知能が低下した状態―。」

認知症には大きく分けて、二つの症状がある。一つ目は、中核症状。主に、物忘れなどの記憶障害や、基本的な状況把握が出来なくなる見当識障害がある。また、判断力の低下も挙げられる。二

つ目は、BPSD（認知症の行動・心理状態）主に、暴言や暴力などの粗暴な行動をおこしたり、被害妄想、うつ状態などが挙げられる。これらの認知症の原因としては、アルツハイマー認知症と、脳血管性認知症がある。

驚くほどに、祖父の症状と一致した。以前の元気な時の祖父の事を思うと、やはり祖父は認知症なのだと思う事で自分を納得させざるを得なかった。では、どう祖父と向き合っていくべきなのか、自分に何が出来ると考えてみた。

まず、認知症になると感情の抑制がきかなくなるということ。それに対して、強い口調で話すと、さらに反応して興奮させてしまうという。否定するのも逆効果となり、妄想を増強させる。黙って聞き肯定も否定もせず、関心をそらしてあげる。やさしく話しかけて気持ち安定するようにしてあげる。

そして、私がもう一つ気になっていることが、認知症の祖父を在宅で介護している祖母のことだ。週三回デイサービスと月一回のショートサービスを利用している。ただ、ここ最近、祖父の認知症は悪化してきている。このままの状態が続けば、祖母に負担がかかってしまう。これ以上、祖父の容態が悪くなる前に、施設に預けた方が良いのではないかと話し合いがもたれた。誰もがこの意見に賛成し、祖母へ勧めた。しかし、祖母だけは、この意見に対し首を縦には振らなかった。

「施設に預けてしまうと、淋しい思いをさせてしまう。私が元気で介護できるうちは、少しでも長く、家で面倒を見てあげたいんだよ。」

この祖母の言葉を聞き、私は目頭が熱くなった。祖父の事を、一番に考えている祖母の愛情を感じた。

認知症になった祖父は、以前と変わらない事が一つだけある。それは、孫全員の名前が言える事だ。色々な事を少しずつ忘れていても、私達孫の顔と名前をピタリと言い当ててくれる事は、私にとって、とても誇らしい事。私は、祖父の家に遊びに行く度に、「私の名前は？」

と、聞くようにしている。その度に、祖父が答えてくれると、大きな安心感を得る。

今の私に出来る事。それは、認知症の祖父の気持ちをよく考え、そして理解し、接してあげること。沢山の話をし、祖父を楽しませてあげたい。そう、祖父の好きな野球の話を。

それから、祖父を介護する祖母を精神的に支え、サポートしてあげること。私なりに、精一杯の手助けをしてあげたい。